はじめに 1
1 桃太郎は桃から生まれない 13
2 赤本の金時と清長 18
3 公平（きんぴら）地獄破 21
4 三重県松阪市射和町の地蔵尊 24
5 ミイラ取りがミイラになる 27
6 曲亭馬琴の見ていたもの 30
7 子どもに向かない赤本 34
8 享保の改革と雛本 37
9 雛本はどのように作られたか 40
10 鼠と福神 43

11 まだまだめでたい作品 46
12 どうしてめでたいか 49
13 ほら吹き男爵のこと 52
14 お猿の顔はなぜ黒い 55
15 猿のいきぎもと馬琴 58
16 夫婦げんかの草双紙 61
17 赤本はいつまで作られたか 64
18 袈裟御前の首 67
19 蛙に乗った七草四郎 70
20 黒本の表紙が語るもの 73
21 『子子子子子子』（ねこのこのこねこ） 77
22 題名がわかった黒本 80

23 どうけ百人一首 84
24 義経の島めぐり 87
25 青本『寺子短歌』 90
26 『亀甲の由来』 93
27 此主三田村彦五郎 96
28 岩瀬文庫の未刊本 99
29 聖書と黒本と竹内孫八 102
30 柳亭種彦の巧みな黒本活用 106
31 楊貴妃青本となる 109
32 一級の江戸文学へ 112
33 出版物の擬人化 116
34 全盛期の黄表紙 119

35 からかわれた寛政の改革 122
36 善玉悪玉流行の端緒 125
37 東洲斎写楽と黄表紙 128
38 敵討物の流行 131
39 敵討ちから生まれた合巻 134
40 合巻と名古屋の人々 137
41 馬琴の稿本と北斎 140
42 草双紙が販売されるまで 143
43 造本の工夫 149
44 紙上歌舞伎シリーズ 153
45 中国小説と日本古典の翻案 157
46 正本写の流行 160

47 質素を重んじた天保の改革 163
48 猫で描かれる合巻 167
49 八犬伝のダイジェスト 170
50 妖術競(くら)べ 173
51 「豊国揮毫奇術競」 177
52 新しい文物 180
53 コルシカ島のナポレオン 183
[附録]「やくしやめつけゑ」 185
図版一覧 201
あとがき 207